

## 2023年度

科目名称	母性看護援助論
授業コード	BK305
英語名称	Maternity Nursing Theory 2
学期	2023年度前期
単位	1.0
担当教員	長田 知恵子 (医療科学部), 今野 友美 (医療科学部), 藤井 美穂子 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では2年生後期の母性看護援助論 の知識をベースとし、周産期の母子（妊産褥婦および新生児）と家族の看護に必要なアセスメントの基本、健康を高めるための援助、周産期特有の看護技術について学ぶ。具体的には、褥婦の全身回復と生殖器復古を促す援助、母乳育児促進のための援助、母親および家族の役割獲得のための援助、新生児の胎外生活適応状態や健康状態および発育状態を把握するためのフィジカルアセスメントおよび看護技術等を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	看護師を目指す上で必要な周産期の主な対象である妊婦（胎児）・産婦・褥婦・新生児とその家族への看護援助の実際について、看護師・助産師として臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義・演習を行う。
到達目標	<p>当科目は、ディプロマポリシーに示された「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」、「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門的知識・技術を有している」ことの実現を目指す。また、カリキュラムポリシーに示された「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶ」上での知識・技術・態度の習得のため、以下の5点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護とアセスメントの基本について理解できる。</li> <li>2. 正常な経過にある母子及び家族のウェルネス看護診断を用いた看護過程が理解できる。</li> <li>3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康状態を高め、アセスメントを行うために必要な看護技術について理解し、その実際について学ぶことができる。</li> <li>4. ライフサイクルに伴う社会生活を視野に入れ、対象がより健康的に子育てができるよう、退院後に心配事を自己解決できるような知識・技術を提供するための知見を得ることができる。</li> <li>5. 応用編として国家試験問題、特に状況設定問題を理解、解釈し、解答を導くことができる。</li> </ol>
計画・内容	<p>1) 第1回 科目ガイダンス、ウェルネス看護診断と看護過程（事例の紹介）  担当教員：新任教員（助産師）  予習：シラバスを読んでおく。母性看護援助論 の内容を復習する。  復習：看護過程のポイントとして提示した箇所（教科書・資料）を学習しアセスメント・計画立案への理解を深める。</p> <p>2) 第2回 妊娠期・分娩期のアセスメントと看護  担当教員：新任教員（助産師）  予習：母性看護援助論 の内容を復習するとともに、教科書の該当箇所を読む。  復習：授業のポイントとして提示した箇所（教科書・資料）を学習する</p> <p>3) 第3回 産褥期のアセスメントと看護  担当教員：新任教員（助産師）  予習：母性看護援助論 の内容を復習するとともに、教科書の該当箇所を読む。  復習：授業のポイントとして提示した箇所（教科書・資料）を学習する。</p> <p>4) 第4回 新生児期のアセスメントと看護  担当教員：新任教員（助産師）  予習：母性看護援助論 の内容を復習するとともに、教科書の該当箇所を読む。  復習：授業のポイントとして提示した箇所（教科書・資料）を学習する。  * 第1回看護過程の提出予定</p>

計画・内容	<p>5) 第5回 看護過程のフィードバック、質疑応答、周産期の保健指導、次回演習の説明      担当教員：新任教員（助産師）      予習：周産期の保健指導および看護過程の疑問点を明確にする。      復習：看護過程の提出に向けて準備する。</p> <p>6) 第6回 技術演習 と看護過程      演習：退行性変化（子宮復古状態の観察、外陰会陰部の観察、全身状態の観察）      および進行性変化（乳房・乳頭、乳汁分泌状態の観察）      担当教員：新任教員（助産師）、非常勤講師（助産師）      予習：演習事前課題を行う。演習項目の内容について、教科書および参考資料等を用いて学習し、演習に備える。      復習：ポイントとして提示した箇所（教科書・資料）を用いて演習事後課題を行う。      演習内容について、後期の実習を意識しながら教科書・資料を用いて学習し学びを深める。また、必要に応じて視聴覚教材を反復視聴する。</p> <p>7) 第7回 技術演習 と看護過程      演習：新生児のバイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、計測、清潔ケア等      担当教員：新任教員（助産師）、非常勤講師（助産師）      予習：演習事前課題を行う。演習項目の内容について、教科書および参考資料等を用いて学習し、演習に備える。      復習：ポイントとして提示した箇所（教科書・資料）を用いて演習事後課題を行う。      演習内容について、後期の実習を意識しながら教科書・資料を用いて学習し学びを深める。また、必要に応じて視聴覚教材を反復視聴する。</p> <p>8) 第8回 まとめ      担当教員：新任教員（助産師）      予習：これまでの学習内容について、教科書および資料を用いて復習しておく。      復習：授業内容について、教科書・資料を用いて学習し学びを深める。      第2回看護過程の提出予定（日程は他領域とも調整を行う）</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および演習を行う。教科書の他、資料および視聴覚教材を用いる。</li> <li>・技術演習は、各自が指示された日時・教室および実習室で行う。</li> <li>・授業の進行状況により授業内容・進度を変更する場合がある。</li> <li>・予習・復習は各自の責任においてきちんと行うこと。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護援助論 で学んだ知識の実践・統合を行うとともに、演習では実習をイメージできるように視聴覚教材を取り入れた学習を行う。</li> <li>・母性看護学（特に周産期）の対象者への理解を深めるとともに、より良い看護援助について考察できるようにする。</li> <li>・講義の最後に質問の時間を設ける（特に看護過程の展開に関しては積極的に取り組むこと）</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は8回と短い。母性看護学実習を履修する前の最後の授業となるため、予習復習を十分に行う。予習：2年次に履修した母性看護学援助論 の内容も振り返りながら、教科書の該当箇所を読んでおく（毎回60分程度）。</li> <li>復習：授業内容と教科書・資料は関連付けて復習し、後期の実習でも活用しやすいように整理する（毎回60分程度）。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：森恵美、母性看護学各論、医学書院      参考書：太田操、ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程、医歯薬出版株式会社      参考書：佐世正勝、ウェルネスからみた母性看護過程、医学書院      参考書：有森直子、母性看護学、医歯薬出版株式会社      参考書：中村幸代、根拠がわかる母性看護過程、南江堂      参考書：平澤美恵子、写真でわかる母性看護技術、インターメディカ</p>
成績評価方法と基準	<p>成績評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度による。      レポート課題（40%）      試験（60%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席課題（リアクションペーパー）については、次回授業時にフィードバックを行う。</li> <li>・提示した課題についてはコメント付与等のフィードバックを行い、後期の実習に向けて振り返りができるようにする。</li> </ul>

## 2023年度

オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	<p>本科目は母性看護学概論、母性看護援助論 における学習を基礎とし、特に母性看護援助論 の知識が必須となるため、各自復習をした上で授業に臨むこと。</p> <p>初回の科目ガイダンスにおいて授業概要の詳細について説明する。特に技術演習は、スケジュールに十分注意して出席すること。</p> <p>* 20分以上の遅刻3回で1回の欠席扱いとする。</p>
非対面授業となった場合の「 授業の進め方」および「 成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方に変更はないが、ZoomやYou Tubeを活用する。</p> <p>成績評価方法と基準については、変更の予定はない。</p>